

サ

出会い ふれあい 助け合い

ロ

あべの

No.68

## にぎやかに華やかに

サロン・あべのの一月の出会い

早咲きの梅日よりが、暖冬を伝える平成四年一月十八日(土)の午後、阿倍野にある近鉄百貨店九階の「粋花KY

K」に於てにぎやかに、華やかに「サロン・あべの」の新年会が持たれた。

集合場所である九階エスカレーター前広場には、時間前からお馴染みの顔が集い、今年も出会えた喜びを笑みにして新年の挨拶が交わされる。初詣の話、寝正月の話等々近況報告があちらこちらで飛び交う中、無粋な会費徴収人が割って入る。新聞を見てと電話で申し込

んで参加下さった方や、初めての新年会参加の方も居られて、お一人お一人お名前を伺いながら、お顔を覚えさせていただく。

店内の中央にある楕円形の大きなテーブルの中心に紅白の梅の古木が金銀の和紙でざっくりと包まれて在り、壁の一隅には可愛らしいお雛様が飾られて居てモノトーンの中で、華やぎをかもしだしていた。

今年の出会いを共に喜び、お互いのご多幸を祈りつゝ、ビールとジュースで乾杯をした。

この後、各テーブルごとに自己紹介や他己紹介が始まる中、次々と出されるお料理に舌鼓みをうちながら、和やかな話声が店内に広がって行った。

参加者三七名。



「サロン」の新年会に参加して

田 平 雅 之

去る一月十八日(土)アベノ近鉄百貨店9Fの「粋花KYK」にて「サロン・あべの」の新年会が行われました。集合場所のエスカレーター前で会費を払い店の中へ。予定より三〇分遅れの二時過ぎに会は始まりました。KYKということで当然料理はカツ料理。私は車で来たこともあって、ビールは一杯だけにしましたが、料理はな



かなかのものだった。同じテーブルにいた人達とも結構話はずんで、楽しい時間はあっという間に過ぎた感じでした。思えば「サロン」に初めて参加してから半年、その間に親しい人も出来ました。今年も、時間の許す限り参加したいと思っています。そして「出会い・ふれあい・助け合い」の気持ちを大切にして、良い人間関係を作っていきたいと願っています。

幹事さん ご苦労さんでした

富 田 慶 子

サロンの新年会は、今年も阿倍野の「粋花KYK」店で開かれた。

毎年、幹事役を引き受けて場所探しに奔走している担当委員は、仕事が入って当日の出席はなかったが、前日まで人数の把握や昨年と同じメニューになってはいけなからと、お料理の内容にも気づきばりをして下さっていた。そのお蔭で参加者には、好評のメニューとなっていた。又、車椅子利

用者が十二名おられ、スムーズに入店出来たのは、お店の方々のテキパキとした快いおもてなしのお蔭と感謝している。

店長さんの「来年もどうぞ、ご来店を」のお言葉が嬉しかった。

毎年、和歌山市から参加下さる大岩氏をはじめ、早くから来て下さっていた方々には、ちょっと遅い目の昼食となってしまう申しわけない事でした。が、これに懲りず「来年もどうぞ、ご参加を…」

●自然を首飾りに 春を楽しみませんか!

サロン・あべの紙一月号で「なんでもハングスのしあわせの村への一泊旅行」を、ボランティア下さる皆様方にご案内させていただきましたが、此の度、日曜サロンとしてハサロン・あべのVも、参加することになりました。

皆様のご参加、お待ちしております。

記

日時：平成四年四月四(土)～五日(日)

集合：身体障害者スポーツセンター

解散 (リフトバス利用)

宿泊：神戸「しあわせの村」内

『保養センターひよどり』

参加費：介助者¥八〇〇〇・

.. 障害者¥一〇〇〇〇・

(一泊二食付、但し五日の昼食は各自負担)

各自負担)

定員：三八名(お申し込みの際、車椅子

の方お知らせ下さい)

締切り：三月七日(土)

問合わせと、申込み先：

「なんでもハングス」

南光方 ☎〇六六九三一二三六七

富田 ☎〇六一六九一一〇二八

3. 1. 92

けい子さんへ

お手紙 ありがとうございます。

92年があなたにとって、お元気で幸せな年でありますように。

去年は私にとって、大へん重要ないくつかの出来事がありました。

91年の夏は、私の肉体的な機能低下の手術のため、入院せねばなりませんでした。

手術は、大成功でした。最近、病気の全症状が前より良くなるか、あるいは全く消えてしまった症状もあります。

2月に病院での次の診察があるので、最終の結果がわかるでしょう。

新しく良いことがあればよいのですが。

去年の夏以来、私は『女性援助協会』に新たに勤めています。

そこで、私たちは少女や婦人と共に働いています。男のように見られてしまう女の人や心理的に問題のある人、彼女らの子供と共に問題をかかえる人たちなど、その他いろいろな人たちです。

私は、この仕事を大変楽しんでます。

しかし、それは93年の7月までのたった2年間です。

あなたの方はいかがですか。

あなたの近況を知らせて下さいね。

では、お元気で。

ブリギッテより、

Unna, 3. 1. 92

ドイツからの手紙

Dear Keiko!

Thank you very much for your last letter!  
I also wish you a good and successfull year in 1992!

There are some events in the last year, which are very important for my future: In August 1991 I must go to hospital for an operation of my hypophyse. This operation was a great success. Nearly all symptoms of my sickness are better or totally disappeared. In February 1992 a next consultation in hospital will give me the end-result. I hope for a good new.

Beside since August 1991 I have a new job in a "women help organisation". There we work only with girls and women, who are hidden by their males, who have psychological problems, who have problems with their children and so on. I enjoy this job very much, but it is only for two years til July '93.

How do you do? I hope to hear some news of your life soon!  
With best wishes  
Yours Brigitte





岡 知史氏のエッセー集  
「知らされない愛について」を  
読まれた方から・・・

人生修業の本

金子花江

先日のサロン紙で岡様のご出版を知り、早速、ボランティア協会より送っていただきました。

まだ、最初の数頁しか読んでおりませんが、それだけでも読む者の心を温かく温かく包んで下さる思いに和らぎました。

そして、何となく思い出したことですが、何年か前 この方が東京へ行かれるので、「サロンともお別れです」という集いの折

りがあり、私はまだ皆様をよく存じ上げていない頃でしたが、いい方どのお別れでと心淋しく思ったことがありました。

あの方が岡様だったのでしようか。

過日、医院の待合室で読んだ週間誌に、「人生には二通りある。その一つは美しい

人生で、もう一つはそうでない人生」とい

う短い文字がありました。表現は、色々で

もこういった言葉は何となく日常のように

私達の頭に入っているのですが、今それを

思いまして岡様と言い、富田様といい意義

ある人生を歩んでいらっしやると感じ入

りました。「美しい人生」のこの美しいは実

に広範囲に訳されます。つまらない雑念が

心に涌いた時「知らされない愛について」

を拝読して人生修業をいたしました。

本当にいいご本を有難うございました。

S・F

二ヶ月ぶりに外泊をもらって家へ帰って  
おりましたが、病院へもどって来ると岡様



のエッセー集がベッドの上に置かれてあり  
ました。

一頁一頁、すてきなカットがあり、文字  
も大きく、読みやすく、内容も充実してい  
て素晴らしいご本でした。

K・O

サロン紙に掲載されている時から、一冊  
の本なればよいのになあと想っていたのよ。  
これで、いつでも読みたい時に読むこと  
が出来るわね。

Y・R

日常生活の中で、なにげなく見過ごして  
いる事柄を、暖かい視点で深く掘り下げ語  
られているので、あゝこういう考え方があ  
るのだと教えられている。

T・M

サロン紙面の楽しみの一つ。いつも感動  
したり感激したりしていた。フツと心に隙  
間風がしのび込んだ時など、読み返したく

なる。小さな冊子であるけれど、中味が濃  
くて心のスパイスになってくれそう。

イラストもいいから、それだけを見てい  
る時もあったりして…

滝本涼子

新しい年の最初のハサロン・あべのV紙  
ありがとうございました。

「波とその広がり」の記事、とりわけ興  
味深く読みました。そして、岡 知史氏の  
エッセー集をぜひ読みたい、ボランティア  
協会へ申込みました。いろいろと勉強させ  
ていただいで感謝しています。

「知らされない愛について」

山村 貴司

「知らされない愛について」のご出版、  
おめでとございます。

岡先生の文章は、いつも楽しく読ませて  
いただいています。先生の文章には、自分  
自身心当りのあることや、新しい発見をす  
ることなどあり、本当に勉強になります。  
これからも、よろしく願います。

# ナンペイの

## ひとつとふたこと

「知らされない愛について」

を読んで

「知らされない愛について」を読ませて頂いた。どの文章にも、岡さんの優しさが滲み出ているようで、読んでいるこちらの心もいつの間にか和らいで行く。

様々な話の中でも、最も心に残るのは「力あるひと」というのは中学校時代、社会科の教師から同じような話を聞いたことがあるからである。

「ほとんど寝たきりに近い障害者で、もちろん働くことなどできないが、その人の笑顔を見ると周りの人の心が知らず知らずなごんで行く。疲れているときでもその笑顔をみるだけでホッとできて、ひととき疲れを忘れさせてくれる。物を作りだしたり、お金を稼ぐといった『労働』ではないけ

れどこの人は立派に、『働いている』と言えるのじゃないか？」

まさに岡さんが書かれている「力あるひと」である。

中学生の私には、とても現実にこんなにも魅力のある人間がいるなんて思いも寄らなかったことだったが、二十年以上の時間が経ち何人かの魅力ある人にめぐり会い、そして今回、素敵な文章に出会えたお蔭でし

\*\*\*\*\*

### 伊丹車いすガイドマップ

\*\*\*\*\*

兵庫県伊丹市で活動する障害者グループが、5年もの歳月をかけて伊丹市内の車いすガイドマップを作りました。マップはA5判、167頁。市内を9地域に分けて、レストラン・商店・市役所・病院等約200施設の段差や障害者用トイレ、エレベーターの有無について記号や写真、イラストを使って説明されています。またQ&A方式で各機関の利用方法も掲載されており、車いす使用者や介助をするボランティアの外出の手引書にもなる一冊です。ご希望の方は下記へお申し込み下さい。

— . — . — . — . — . — .

定 価： ¥800.

申し込み先

○吉原 勝 TEL.0727-83-7047

〒664 伊丹市野間字北向166-7

県住7-282

○岩永 清滋 TEL.0727-82-1204

〒664 伊丹市緑ヶ丘 1-83

\*「知らされない愛について」

著 者 岡 知 史

イラスト 石田 美禰子

発 行 ボランティア協会・出版部

〒061-3571 五七四一(代)

FAX 061-3581-2892

頒 価 七〇〇円

「わかりと「力あるひと」が現実にたくさんいることを教えてもらう事が出来た。もちろんこのことを教えてくれた魅力ある文章が書ける岡さんご自身が「力あるひと」であるということは、間違いない。」

南光龍平

# Volunteer Center

10

## 九 ボランティアセンターの機能(各論)

### ① ボランティアの発掘

ボランティアセンター(VC)の機能を活動の流れにそつてみると、最初はボランティアの発掘ということになる。地域福祉や高齢化社会などに関連したさまざまな調査では、だいたい三分の一の人はボランティア活動をしてみたいと答えているようである。一方、現在活動しているという人はせいぜい数パーセントであるから、潜在的なボランティアは数字の上からは非常に大きく、これらの人々への働きかけがたいへ

ん重要だというわけである。

働きかけというと、まずは「PR」ということが浮かぶが、実際にボランティア活動をしている人に参加した直接のきっかけとたずねると、人にさそわれたという答えが非常に多いから、いわゆる「雪だるま式」にボランティア自身やグループが仲間を広げていくということが重要であり、VCではボランティア自身のそうした活動を支援するために、例えばきっかけとなるイベントの開催や、新しいボランティアの受け入れ体制の整備などを行っていくことになる。もちろん、働きかけの方法としてはさまざまなメディアを使った広報活動が大きな力をもっており、VCにとつても大切な活動であるが、この分野は自らが情報提供機



能をもつ(べき)行政や社協が大きな役割を果たすことが期待される。しかし、人々がさまざまな情報を得ているのは、テレビや新聞などのマスメディアの影響が大きいので、これらの有効な活用が課題であろう。また、直接的な働きかけとしては、一定の組織化がされた自治会の機能も大きいがあるため、本来の意味でのボランティア活動を広めるということからは難しい面をもっている。このあたりが好むと好まざるとにかかわらずやるべきコミュニケーション活動との違いということであるかも知れないが、自治会の中で「ボランティア部会」のようなかたちで活発な活動を行っているところもあり、こうした活動とVCの関わり方も重要になってきている。

いずれの方法によつても、活動への関心をもち、参加を希望する人に対して、インテーク(受け入れ)やオリエンテーション(導入)を行なうとともに、地域福祉やボランティア活動についての基本的な知識を理解してもらうことはVCの機能であり、「最初が肝心」の大事な仕事である。

原田 仁

## 不思議なほど表面的な

先日、ひとりの学生が自分達の「サークル」について話してくれた。通常の大学サークルとは違って、新入生に無理に酒を飲ませることもしない。先輩・後輩などという区別もなく、新一年生が親近感を表現するために古参の四年生に対して故意に乱暴な口調で話すこともあるという。

面白いのは、このサークルには特にこれといった目的がかかげられていないことである。集会も毎日のように一人の学生のアパートの一室で行なわれるらしい。というとな単なる遊び仲間の

ようだが、月に一度の「飲み会」には七十人から百人も集まることがあり、私に話してくれた学生などは「そのサークルを誇りに思う」と何度も断言しているのだから、やはり尋常の集団ではないようだ。

誰か「教祖的」なリーダーがいるのかというと、そうでもない。会則とか役員とか、そういう組織的な要素もなく、ただ雑談にあけくれている集団のように思えるのだが、ではどこに百人も集めてしまう魅力があるのか。多くの好奇心いっばいの質問に、彼はこう答えた。

彼にとつては、ここの学生とはなぜか話しにくい。話しても話した実感が得られないという。どうしてこういう人間関係で平気なのか理解できない。ところが、彼の「サークル」では、つまらない話から真剣な人生論議までなんでも話せる。自分が勉強などを怠けていると親身になって怒ってくれるのだという。

「怒ってくれる」という彼の言葉の響きには切実なものがあり印象的であった。というのも、ここの学生たちは

仲よく話しているように見えて実は何もお互いのことを知っていないことがある。不思議なほど表面的なつきあいであり、ある意味では社交的である。相手の心を傷つけまいと配慮する意味では、互いに「優しくすぎる」のであるが、傷つけるところまで「つきあい」が進まないというのが正確なところであろう。

ふりかえってみると、ぼくにもそういう「つきあい」がある。仕事上のつきあいでもなければ、あるいは別の理由があつてもつきあわなければならぬというわけでもない。かと





いつて、もう何年もつきあいがあるのに友人らしくつろいだ気分でお話したことはほとんどない。

ではなぜつきあっているのかと改めて自問すれば、「おつきあい」をしているというほどの、あいまいな動機がなく、自覚すれば、ほとんど情性になり諦めにさえ近くなった淡い期待感をもつて、ないよりはましというほどの人間関係に時間をつぶしている。ここでは、ぼく自身は、ぼくぜんとした孤独感と、孤立した自分を人に見せたくないという小さな虚栄心から、とりつくろつたような「和」を演出しているにすぎないのである。

これは一種の「精神の老化」ではないか。新しい出会い、心ときめく魂と魂のぶつかりあいを求めようとする気が失われて、閉じた扉に背もたれして惰眠に自己を奪われているのではないか。

もはや求めぬことは精神の成熟を意味しない。それは衰弱であり意思の枯渇であろう。惰眠に動かぬ表情は、静かな悟りの顔と似てはいても同じではないのである。

(知)

## 〇〇〇〇 「嬉しい誤算」

浜本浩喜

去る一月十三日から大阪市交通局が日本で初めて、三路線でリフト付路線バスを走らせ始めました。僕はちょうど、そのうちのひとつである、鶴町四丁目―難波間の沿線に住んでいる関係で、ほとんど毎日利用しています。

バスの詳しい内容は、地下鉄の各駅並びに、長居のスポーツセンターに置いてあるパンフレット等を見ていただくとして……リフトバスが走る事は随分前から知ってはいましたが、実際に走り出すまで、ちょっと不安でした。例えば運転手の対応はどうであろうか、乗車拒否のようなものはされないか、乗客から文句が出ないか等々、いろいろ考えていました。

ところが、いざ乗ってみるとそんな心配は、どこかに飛んで行った気がしました。運転手の対応はかなり良いものだし、乗客の人は僕が乗り込むまでちゃんと待っていてくれる。「がんばってください」などと声を掛けてくれる人もいるくらいです。

これこそ、正に『嬉しい誤算』だなと思いました。

現在、三路線で十一台のバスが走っていますが、これが二倍三倍となって、少しでも早くアメリカ並みになる事を願います。

~~~~~

井 感謝します 井

カンパ・切手・お茶菓子・冊子等ありがとうございました。

お礼を申し上げます。

一月のカンパ 金四〇、七〇〇円

朝日新聞厚生文化事業団、

伊丹車いすガイドブックを作る会、

上平幸雄、崎本ヒサエ、田中葉奈子、

富田慶子、南光龍平、堀部俊二、

広岡泰枝、松川耕三、丸山寿美子、

倭 満也子、山本敏子、匿名二名様

(敬称略)

○此の度、エッセー集「知らされない愛について」の著者 岡 知史氏より、印税(三一五〇〇円≡税引き)の一部をハサロン・あべのVにご寄付いただきました。ありがとうございます。

# 美智子のこんな話



岸田 美智子

## 不動産屋めぐり

私達が取り組んでいる「施設の障害者外出サービスマネットワーク」(略称「外出サービス」)の事は、この「サロン・あべの」紙にも時々書かせていただいていますし、この活動から生れた「ウィル作業所」建設資金カンパ協力の呼び掛けも以前していただきました。

そのウィル作業所の新しい場所探しを具体的に始めています。車椅子の私達が働く作業所づくりには、お金の問題・仕事づくりの問題・健全者専従職員確保の問題など色々難しい問題が山積みですが、その一つに場所の確保問題があります。

そして、この場所探しの為に不動産屋めぐりを始めています。まず、手当りしだい介助者と私が歩き回り、不動産屋が目につきしだい飛び込んで、家賃や広さなどの希望物件の条件とこちらの連絡先などを記した用紙と、こちらの希望地域を指定した地図を持って、頼んで行くのです。

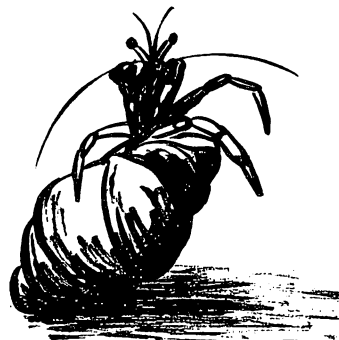
不動産屋なんて行った事がない私には、障害者なんてお客だとは思っていない差別的な態度で断られても、自分でも不思議なくらいとても新鮮で刺激的に楽しんでいるのです。

その不動産屋の経営方針やそこに勤める事務員の人柄などは、ドアを開けて一、二分話せばもう、何故か？ほとんどわかってしまうものだなあと感じます。

新しい介助者の方など人と会う事が日ごろから多い私は、改めて第一印象が大事だと思っています。

部屋の作りや家具は勿論、事務用品や事務員の服装までモノトーンでまとめているおしゃれな所、飛び込んだその事務所が売り物で、突然「ここどうですか？六九〇〇万円やけど、話しによってはまけとくで…」などと言われた所、その場ですぐに適

当な物件を紹介し、即座にその物件を見に案内してくれた所など……私達の不動産屋巡りは、当分の間続きそうです。どうなることやらー？



## ∞ サロン・あべの紙の朗読テープが出来ました ∞

山本敏子さんのご協力で、サロン・あべの紙六七号の録音テープが出来ました。

バックナンバーは三九号から、六七号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。

サロン紙朗読テープご希望の方は、冨田までお申し出下さい。(TEL06-691-1028)

# 《新》なんとかしてエ〜な

「お急ぎの方のために・・・」

柳 生 幸 子

私は、ポリオの後遺症のために右足がマ  
ヒとしています。で、利き足は左。電車のつ  
り革も階段の手摺も左手で持ちます。もち  
ろん、エスカレーターの手摺も。特にエス  
カレーターの手摺は右手で持つと、乗降の  
折りに体がふらふらして非常に危険なので  
必ず左手で持ちます。と言う事は、左側に  
立つ事になりますね。それで左側に立って  
いると「エスカレーターでは、右側に立っ  
てお急ぎの方のために、左側は空けておき  
ましょう」とのアナウンスが何時も聞えて  
くる訳があります。



私が左側に立っていて、ジグザグに上っ  
て来たお急ぎの方に、今までのところは何  
も言われた事はありません。が、このアナ  
ウンスを聞いたたびに自分が非常識な事をし  
ている様に思えてなりません。

エスカレーターでは、右側に立つのが一  
般的なルールかもしれませんが、右側に立  
てない者が乗っている事も、理解してもら  
いたいと思うのですが・・・

## おしらせ

### 三月の 出 会 い

日 時 三月二一日(土)午後一時〜四時

場 所 育徳コミュニティセンター二階

研修室(スロープ車椅子トイレ有)

「阿倍野区阪南町五―十五―二八」

内 容 「久しぶりに、岡さんと・・・」

パネル― エッセー集「知らされない愛に

ついて」 著者〓岡 知史氏

会 費 な し

問い合わせ TEL・06-691-1028 (富田慶子)

## 編集後記

永い間便りがなかったもので、どうしておられるのか、気にな  
っていたのですが、お正月に元気な知らせがドイツから届  
きました。手紙で出会ってから数年、手紙だけのおつきあい  
ですが回を重ねるうちにふれあいが深められ、便りがくるとほっとします。また、新年会で  
だけお会いできる人も何人かいらっしゃいます。今年もお会いできてほっとしました。

(石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.68[ '92. 2.15 発行] 定価¥100.

代表；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028

表題；齊藤孝文・筆

印刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.

# 「これ、くだらぬ。」

セピア色した表紙には、草花の密やかな囁きとやさしさが花籠いっばいに描かれています。

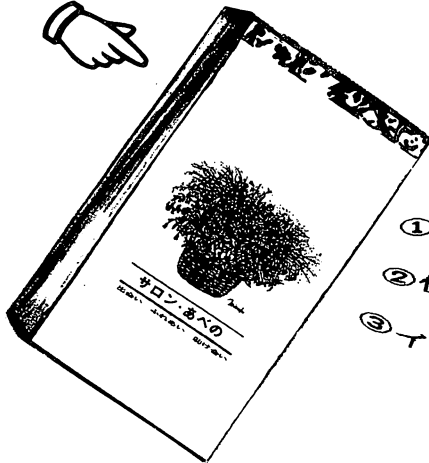
中紙は、淡いクリーム色の地に手がきの「月・日」と罫線がブラウンカラーで印刷されていて、システム手帳のスペア用紙にも使用出来る大きさになっています。

ペンすべりのよい高級紙を使っています。

出会いの楽しさ、一言の言葉の喜びを伝えてくれる《メモ帳》。

「サロンの《メモ帳》」と言ってお求めください。

○1冊 (100枚綴)・・・¥150.



- ①システム手帳にも使えます
- ②便せんにも使えます
- ③インクがにじみません